

関数 $y = ax^2$ の値の変化

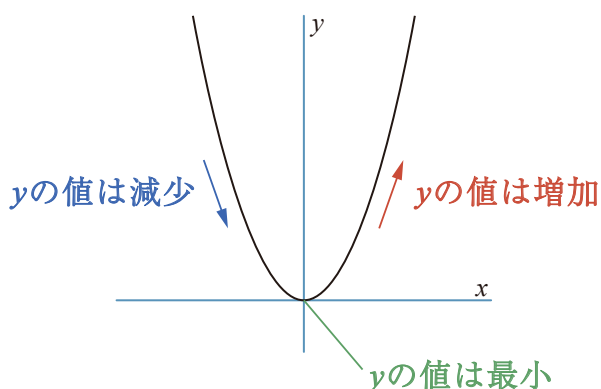
関数 $y = ax^2$ は、 x の値が変化すると、対応する y の値は

(1) $a > 0$ の場合と、(2) $a < 0$ の場合で、変化のようすが次のように変わる。

(1) $a > 0$ の場合の x の値の変化と、対応する y の値の変化

- ・ $x < 0$ のとき、 x の値が増加すると、対応する y の値は減少する。
- ・ $x = 0$ のとき、 $y = 0$ となり、 y は最小の値をとる。
- ・ $x > 0$ のとき、 x の値が増加すると、対応する y の値は増加する。

関数 $y = ax^2$ の $a > 0$ の値の変化



(2) $a < 0$ の場合の x の値の変化と、対応する y の値の変化

- ・ $x < 0$ のとき、 x の値が増加すると、対応する y の値は増加する。
- ・ $x = 0$ のとき、 $y = 0$ となり、 y は最大の値をとる。
- ・ $x > 0$ のとき、 x の値が増加すると、対応する y の値は減少する。

関数 $y = ax^2$ の $a < 0$ の値の変化

